

ユングの共時性考 たなか踏基

安曇野を舞台にした小説「奇妙な猫たち」の執筆に際して、ユングの心理学「共時性」に関心を抱き二冊の本を表層乱読した。何れも、京都大学名誉教授の加藤隼雄著作の本で、柔軟な頭脳を喪失していた私にとつては、溜息がでるくらい難解な代物で大苦戦した。

加藤隼雄は、スイスで直接ユングに学び、ユング心理学を極めた学者で、臨床心理のカウンセラーとして超一流の人物である。世界のトップクラスのユング心理学者の中から、毎年ひとり招聘して行われる由緒あるフェイレクチャ（米国）に、東洋から初めて呼ばれた人物でもある。幾多の現場分析の経験は、国内外でも豊富で実証済みである。現場を踏んだ経験者、正に日本の泰斗である。そんな最高権威者の著作集は、全部で十四巻あったが、第十一巻「宗教と科学」と「ユング心理学と仏教」に取組んで執筆の参考にした。人の心を理解することの意味、魂についての著作は何れも岩波書店だった。

そもそも、心理学の難解本を読もうと、その気にさせた動機は、遠藤周作著作「万華鏡」である。書棚の本を何気なく手にしたら、それが家内購入の「万華鏡」であつた。ぺらぺらと頁を繰ると「共時性」という言葉に触れた、その言葉は、昔大学の一般教養学講座で、未だ頭脳が柔らかい時代に聴いた懐かしい言葉だった。遠藤周作は、このエッセイを朝日新聞に連載した。当時、読者から多くの反響の手紙が寄せられている。本の中でもその手紙の一部が公開されている。私は、友人彫刻家の開眼したての墓

参の折に、家内と共に不思議な体験をした。それは「安曇野随想録」として、私のHPに掲載済みで、一部の人の共感を呼んだ。

その時の体験を基本に、短編小説を執筆しようとしたが、キイワードは「共時性」であつた。「万華鏡」を読んでいる内に、たちまちあの構想が閃いた。文脈ストーリーが一挙に浮かんだ。登場人物とSFとしての伏線、最終プロットまでが脳裏に浮かんだ。「第六感」の閃きで、既に完成したような錯覚すら覚えた。

題名を始め「共時性の猫たち」にしようと思つたが、「共時性」という言葉の重みを避けたのと、前作「奇妙な喫茶店」が一部の地域で好評だった事を考慮し、「奇妙な猫たち」に決めた。執筆の過程で困つたことが起きた。主人公の実名が使えなくなつたからだ。でもそれは遺族の心情をおもんばかれば当然であつた。初期の構想から三ヶ月、実質執筆期間は二ヶ月である。こうして百十枚の短編「奇妙な猫たち」が脱稿した。あとは、部分的に実在の場所や実名を使用したので、出版までの間に、了解を求めたり修正を施せば良いとたかを括つている。

「共時性」であるが、スイスの心理学者ユングは、二十世紀前半に二つの理論を展開した。この理論は非常にセンサーショナルなもので、一部の人からは熱狂的に信奉支持されたが、他方では激しい非難を受けた理論であつた。ひとつは「布置(Constitution)」であり、もうひとつは「共時性(Synchronicity)」の理論であつた。「布置(Constitution)」とは、因果関係のない複数の事柄が殆ど必ずといっていいほど同時に、または連続して起きる現象である。「共時性(Synchronicity)」とは、一言でい

ば、心の出来事と外界に起こる出来事がシンクロ(一致・調和)することであり、「複数の出来事の意味ある偶然の一致」と定義されている。もつと平たく言えば、関係ないはずの所で、都合よくあるいは都合悪く、密接に係り合つた事象が起こることとされている。ユング心理学の共時性は、布置的現象、特に魂の世界を説明するための理論ともいえるのである。

例えば「虫の知らせ」「第六感」「正夢」「夢のお告げ」「フラッシュバック」「一瞬の悟り」「予知夢」等の臨床心理学者が関心をかき立てる言葉が思い浮かぶ。折しも、JR西日本福知山線の尼崎～宝塚駅間で、忌まわしい電車大脱線事故で、百七名の死者と四百六十名の重軽傷者が発生した。死と生を分ける偶然は、ここでも事例がある。2～3両目に乗車の人が、たまたま尿意をもようし、幸運にもトイレの近く5両目に乗車して死なずに済んだ。逆に2両目で生きてはいるが、自分の下で圧死した人の犠牲で助かつた人もいる。「虫の知らせ」の尿意とは、因果関係は無いはずである。何故サバイバースギルドに悩むのか？たまたま亡くなつた死者の魂の悔いを残した「夢のお告げ」と考えれば説明が付く。「共時性」なる言葉は一見難しいが日常の場面で人は経験し、その事例は幾らでもあるような気がするのである。

余談であるが、母校の先輩、社会派映画監督の熊井啓は遠藤周作の二つの映画化に成功している。「海と毒薬」(奥田瑛一・渡辺謙)、「深い河」(秋吉久美子・奥田瑛一)である。特に「深い河」は原作を越えた映画と、著者自ら激賞しているが、この成功も「共時性」の魂の産物と考えられないだろうか。了